



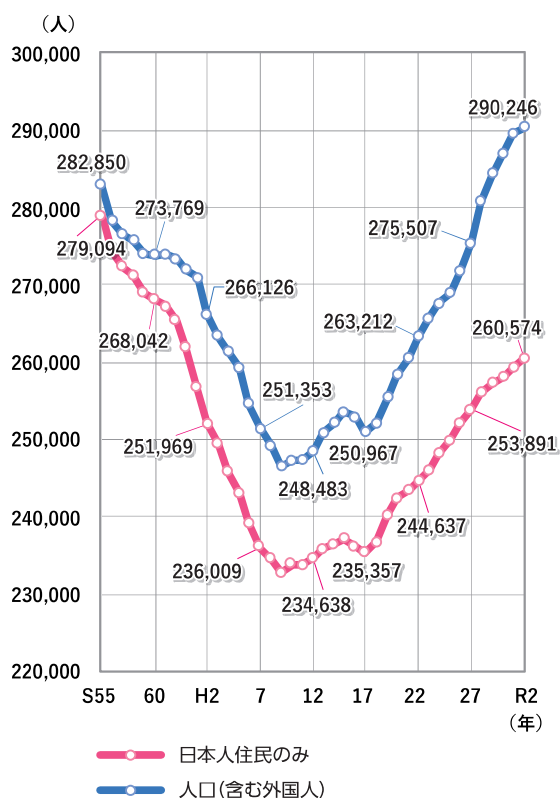
2 豊島区の状況

(1) 豊島区の現況

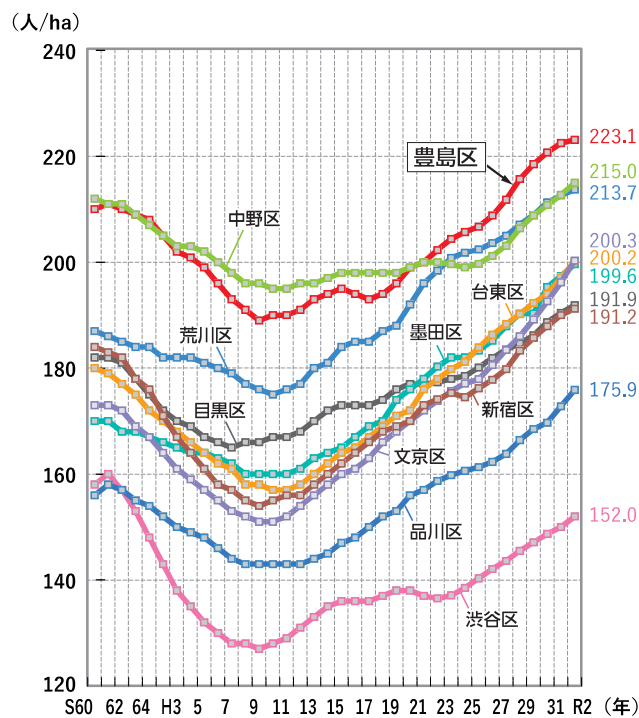
①人口と人口密度

- 豊島区の人口は、令和2年1月現在 290,246 人（うち外国人人口 29,672 人）となっています。平成9年を底に平成14年まで増加傾向が続いていた区の人口は、平成15年、16年の2年間一時的に減少しましたが、平成17年には再度増加に転じ、現在まで増加を続けています。
- また、区の人口密度は、令和2年1月現在 1ヘクタールあたり 223.1 人であり、全国で人口密度が最も高い都市となっています。

豊島区の人口の推移



各区の人口密度の推移



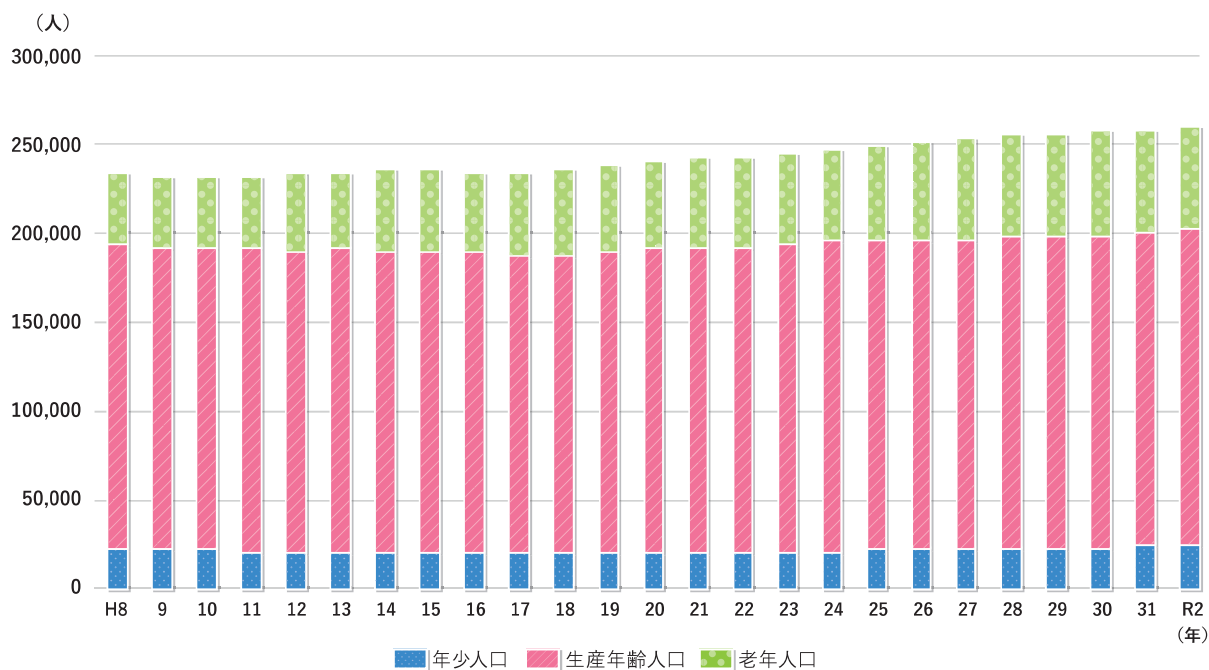
※人口密度=人口総数/面積
 ※人口総数について、平成24年以前は、住民基本台帳による日本人住民数に外国人登録者数を加えている。
 住民基本台帳法の改正(H24.7)以降は、住民基本台帳による日本人住民数及び外国人住民数を用いている。

出典：住民基本台帳及び外国人登録 各年1月1日

②年少人口と少子高齢化

- 15歳未満の年少人口は、令和2年1月現在 24,715 人となっています。平成18年まで減少を続けてきましたが、その後は増加傾向にあり、平成28年に432人、平成29年に352人、平成30年に498人、平成31年に327人増加しています。

豊島区の年齢(3区分)別人口推移



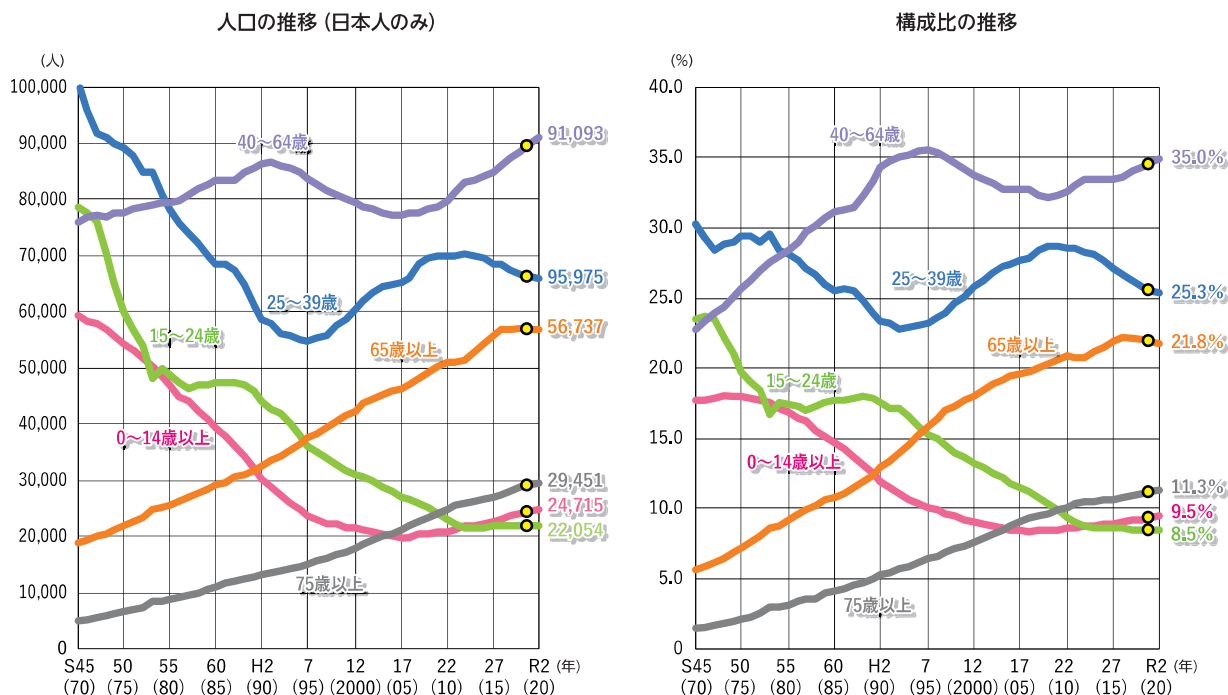
年次	H8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
老年人口 (65歳以上)	38,338	39,399	40,527	41,513	42,407	43,560	44,470	45,357	45,754	46,169	46,874	48,103	49,125
生産年齢人口 (15-64歳)	173,034	171,088	171,278	170,738	170,858	171,397	171,246	171,233	170,171	169,322	170,037	171,932	172,620
年少人口 (0-14歳)	23,093	22,276	22,060	21,636	21,373	21,005	20,641	20,507	20,116	19,866	19,746	20,240	20,542
計	234,465	232,763	233,865	233,887	234,638	235,962	236,357	237,097	236,041	235,357	236,657	240,275	243,462

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	R2年
3	49,125	50,209	50,952	51,161	51,469	53,496	54,304	55,755	56,665	56,933	57,037	56,865	56,737
2	172,890	172,620	172,762	173,616	175,094	175,188	175,437	175,394	176,328	176,776	177,174	178,032	179,122
0	20,542	20,633	20,923	21,252	21,736	21,941	22,369	22,742	23,106	23,538	23,890	24,388	24,715
75	242,557	243,462	244,637	246,029	248,299	250,625	252,110	253,891	256,099	257,247	258,101	259,285	260,574

出典：住民基本台帳（日本人住民のみ）各年1月1日

- 平成26年に15～24歳の年齢層の割合が最も低くなりましたが、その傾向は令和2年も続いており、平成31年と同じ8.5%となっています。65歳以上の高齢者の割合は、令和2年では前年から0.1ポイント減少し21.8%となりましたが、75歳以上の割合は11.3%と平成19年以降最も高い割合となりました。

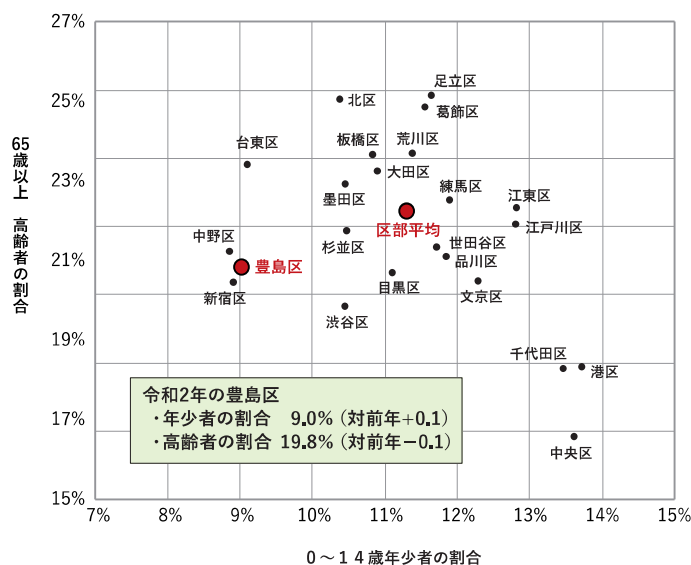
豊島区の年齢構成別人口の推移



出典：住民基本台帳（日本人住民のみ）：各年1月1日

- また、23区の中で、少子高齢化の状況を比較すると、高齢者の割合は19.8%で、8番目に低い値となっています。年少者の割合は9.0%と、中野区、新宿区に次いで3番目に低い状況です。

高齢者と年少者の割合の比較

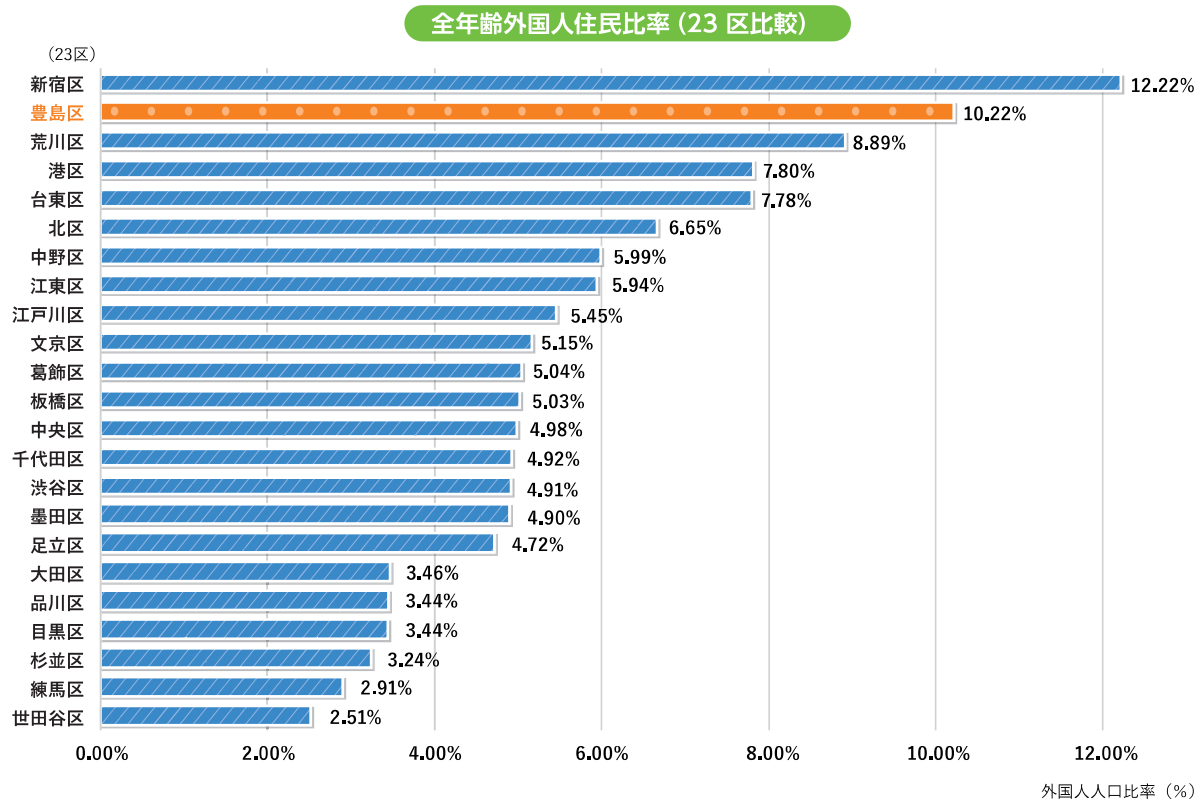


出典：住民基本台帳（外国人住民を含む）令和2年1月1日

③外国人人口

ア 外国人住民の割合

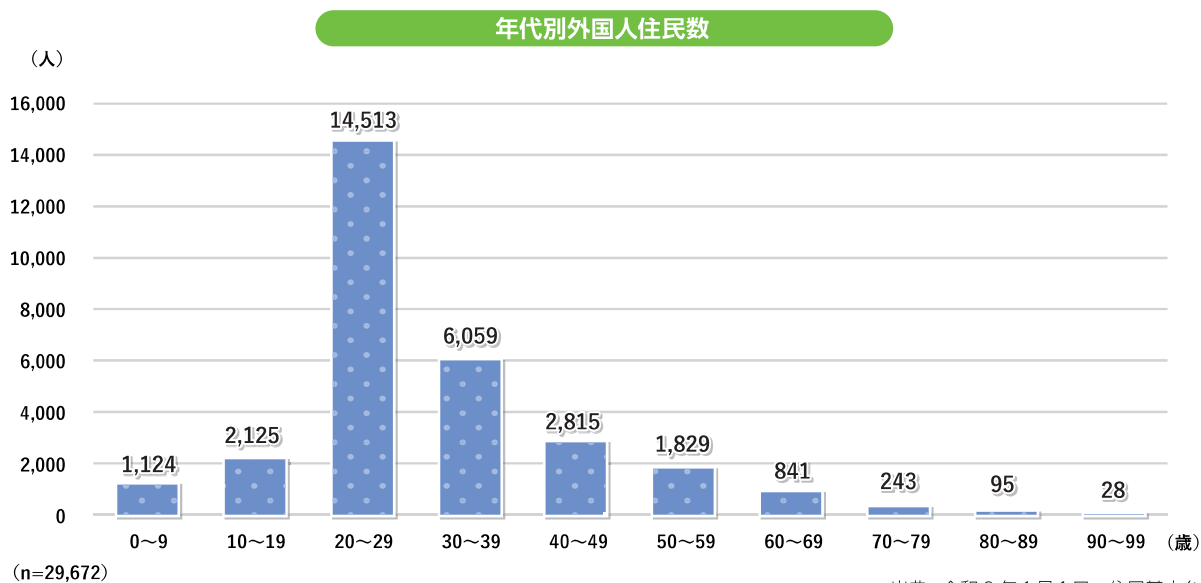
- 東京都 23 区の中で比較すると、豊島区の外国人住民割合は、新宿区に次いで 2 番目に多くなっています。



出典：令和 2 年 1 月 1 日 住民基本台帳

イ 年代別外国人住民数

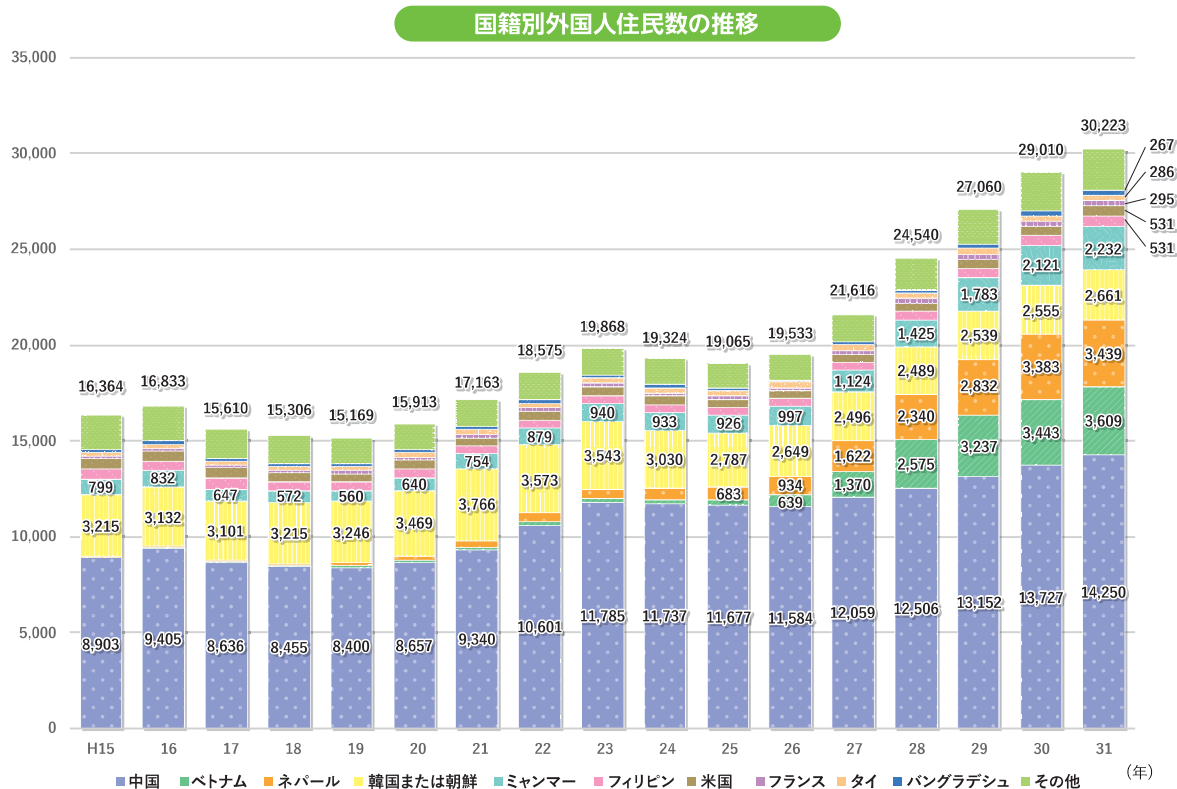
- 10 歳ごとに住民数をみると、20 ～ 29 歳が最も多くなっています。



出典：令和 2 年 1 月 1 日 住民基本台帳

ウ 国籍別住民の割合

- 国籍別に住民数割合をみると中国国籍の住民が最も多く、増加傾向にあります。また、平成26年からはベトナム国籍の住民が特に増加しています。



出典：各年1月1日現在・住民基本台帳及び外国人登録

エ 保育園、公立小中学校・幼稚園の外国籍児童生徒

- 保育園、公立小中学校・幼稚園の全てにおいて中国籍が最も多くなっています。

豊島区内の保育園及び区立小中学校・幼稚園の外国籍児童生徒の状況 (国籍別)

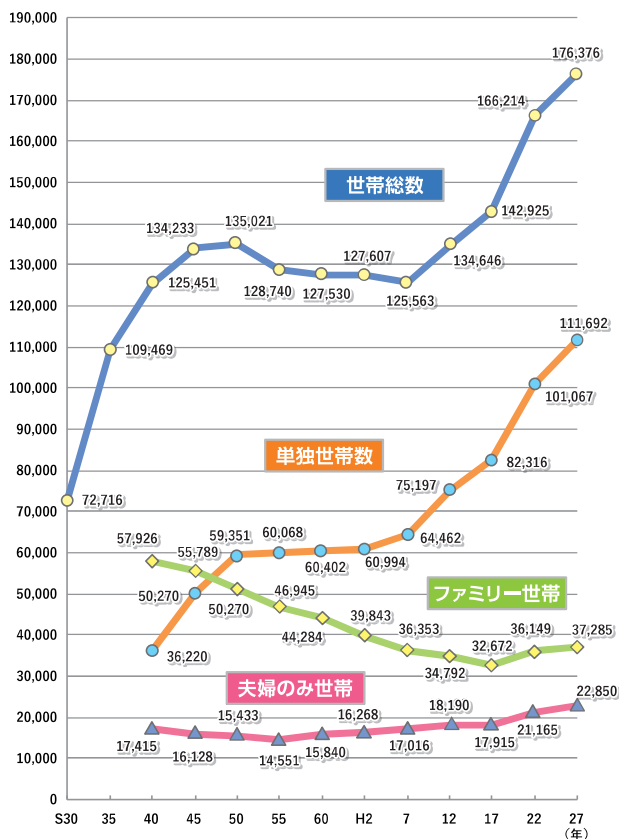
	国籍別人数							合計	在籍者総数	在籍数に占める 外国籍の割合
	中国	ネパール	ミャンマー	ベトナム	韓国	台湾	その他			
保育園 (区立、私立、地域型) 平成31年4月1日現在 区立幼稚園 令和元年9月1日現在	167	67	37	19	18	8	30	369	6,107	6.04%
区立小学校、中学校 令和元年5月1日現在	269	25	22	8	22	9	34	411	11,118	3.70%

出典：保育課、学務課作成資料

④ 世帯数と世帯類型

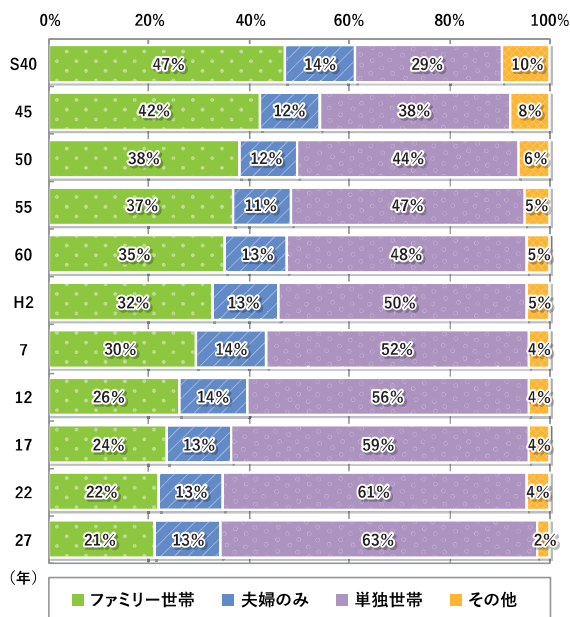
- 区の世帯数は、平成 22 年から平成 27 年までの間に約 1 万世帯増加し、176,376 世帯となりました。
- 世帯類型別にみると、全ての世帯類型で増加しており、特に「単独世帯」の増加が著しく、全世帯に占める割合は、平成 27 年で約 6 割となっています。一方、「ファミリー世帯」の世帯数は増えているものの、割合は約 2 割となっています。
- 23 区の中で比較すると、「単独世帯」の割合は新宿区に次いで高く、ファミリー世帯の割合は新宿区、渋谷区に次いで低くなっています。
(※「ファミリー世帯」とは、「夫婦と子の世帯」「ひとり親と子の世帯」「三世帯世帯」の合計)

豊島区の世帯類型別世帯数推移



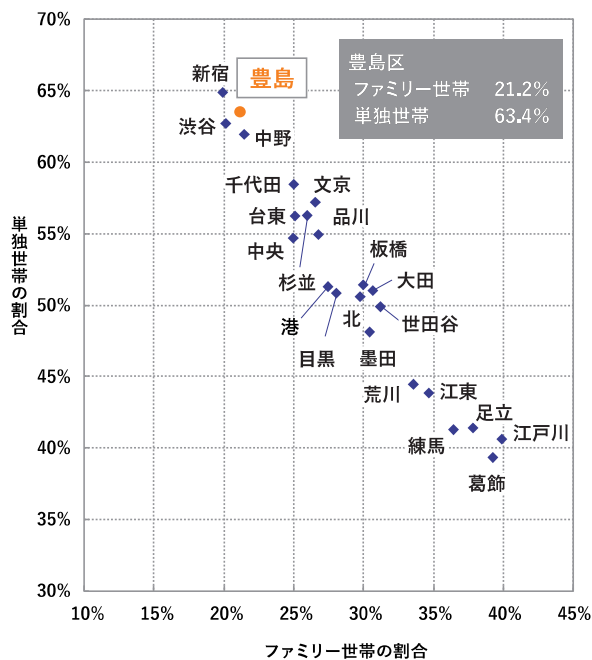
出典：国勢調査

豊島区の世帯類型別構成比の推移



出典：国勢調査

単独世帯とファミリー世帯の割合



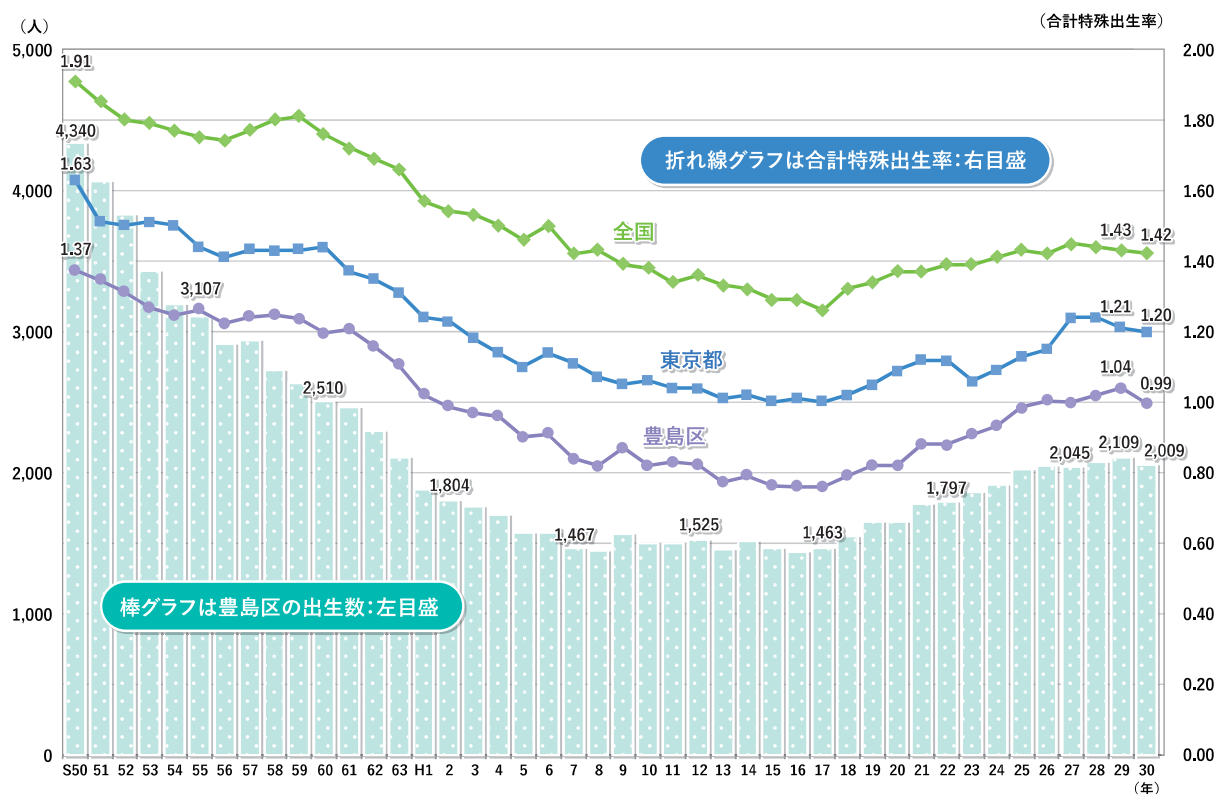
出典：平成 27 年国勢調査

⑤出生数と合計特殊出生率

- 減少を続けてきた出生数は、平成7年以降、1,400～1,500人前後でほぼ横ばいで推移したのち、平成17年以降は増加傾向に転じましたが、平成30年には2,009人に減少しました。
- また、合計特殊出生率についても、平成15年に0.76となり、平成18年以降は増加に転じましたが、平成30年には0.99となりました。

(※合計特殊出生率：その年次の出生率で子どもを産むと仮定した時の、一人の女性が一生のあいだに産む子どもの数)

合計特殊出生率と出生数の推移

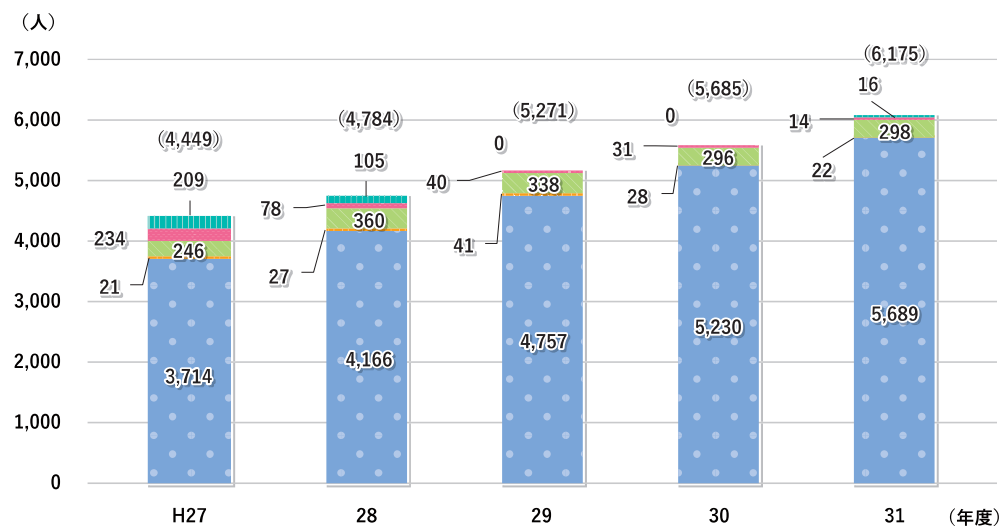


出典：豊島の統計、情報管理課資料、豊島区の保健衛生、厚生労働省「平成30(2018)人口動態統計(確定数)の概況」、東京都福祉保健局「人口動態統計年報(確定数)平成30年」

⑥保育所の入所児童と待機児童の推移

- 豊島区では、平成 28 年度に 105 人いた待機児童が平成 29 年度にゼロとなり、平成 30 年度も継続して待機児童ゼロを達成しました。しかし、平成 31 年度は国の定義の見直しを受け、待機児童が 16 人となっています。

保育所の入所児童数と待機児童数の推移



※()内は保育希望児童数合計

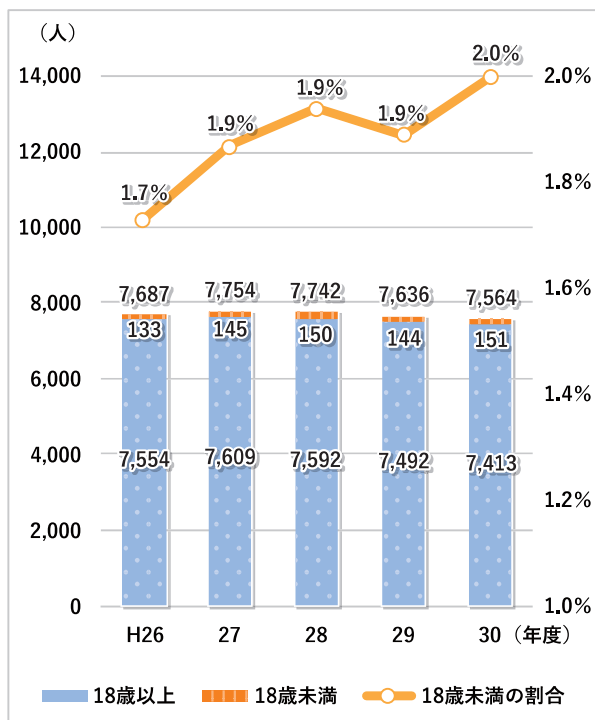
- 待機児童数
- 認可外保育所入所児童数
- 小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業利用児童数
- 認定こども園
- 認可保育所(区立+私立)入所児童数

出典：保育課作成資料

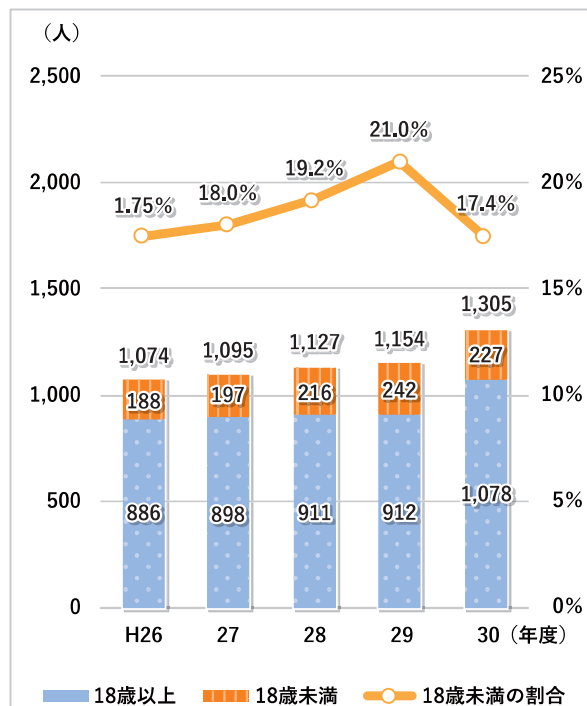
⑦障害のある子どもの状況

- 身体障害者手帳所持者数はここ5年間でほぼ横ばいですが、愛の手帳（東京都療育手帳）所持者数は近年微増傾向にあります。

身体障害者手帳所持者数の推移



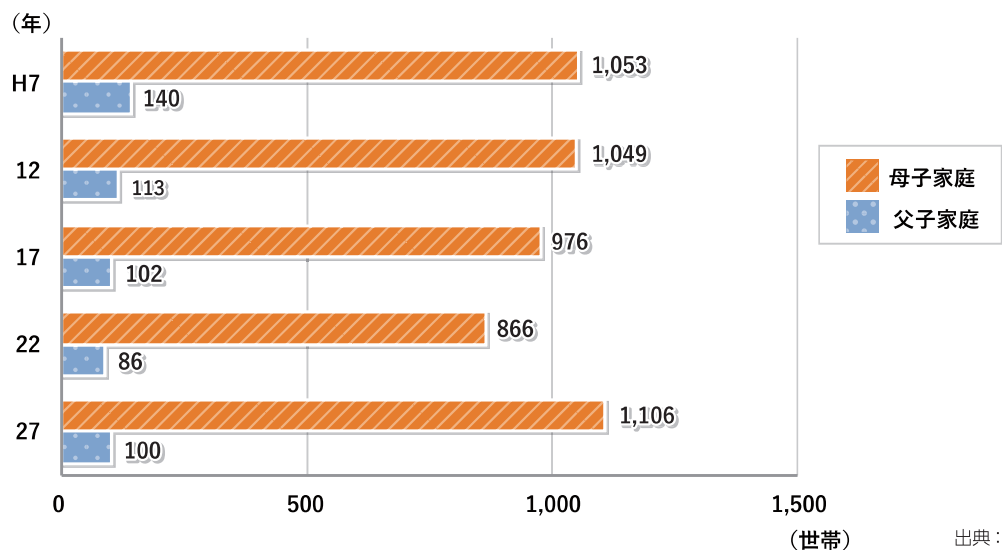
愛の手帳所持者数の推移



出典：豊島区の社会福祉

⑧ひとり親世帯の推移

- 平成22年度の国勢調査時点まで、ひとり親世帯の数は減少傾向にありましたが、平成27年度の国勢調査で増加となりました。母子世帯の割合が高く、母子世帯数は父子世帯数の約8～11倍となっています。

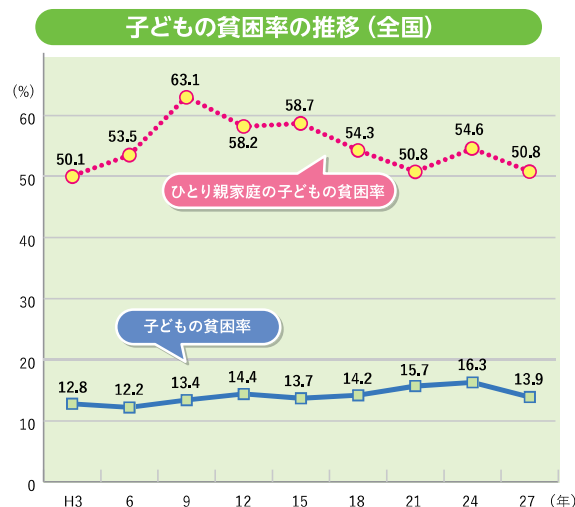


出典：国勢調査

⑨子どもの貧困関係

全国の「子どもの貧困率」は平成24年に16.3%と過去最悪となり、17歳以下の子どもの6人に1人が貧困状態にあるとされました。平成27年には若干減少して13.9%になりましたが、依然として7人に1人が貧困状態にあると考えられます。

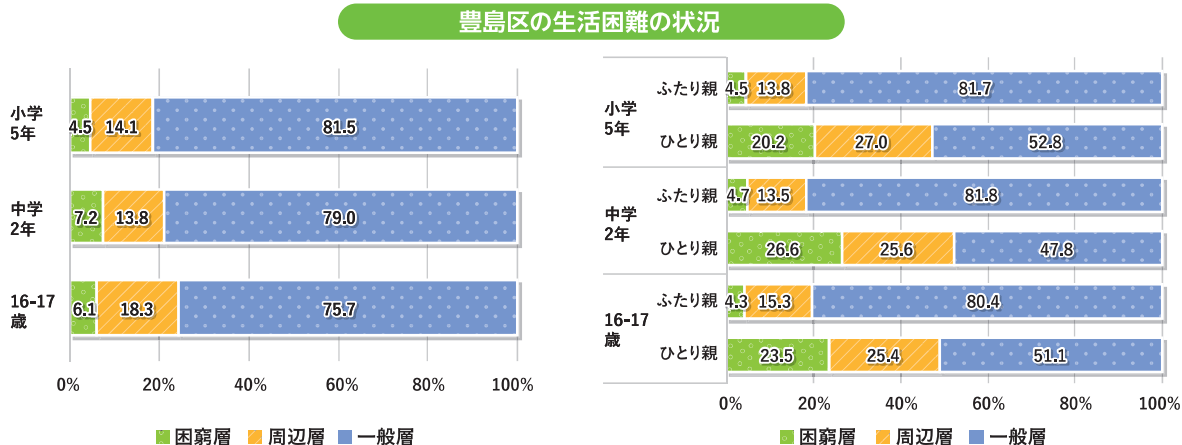
中でも、子どもがいる現役世帯の「ひとり親世帯」では貧困率50.8%で、2人に1人を超えている状況にあります。



出典：平成28年度国民生活基礎調査（厚生労働省）

ア 豊島区の生活困難層の状況

- 東京都が平成28年度に実施した「子供の生活実態調査」では、豊島区の小学5年生の4.5%、中学2年生の7.2%、16-17歳の6.1%が困窮層で、周辺層と合わせて約2割の子どもたちが生活困難層でした。
- ひとり親世帯の方がふたり親世帯に比べて生活困難度が高い傾向が見られ、どの学年でも約半数が生活困難層にありました。



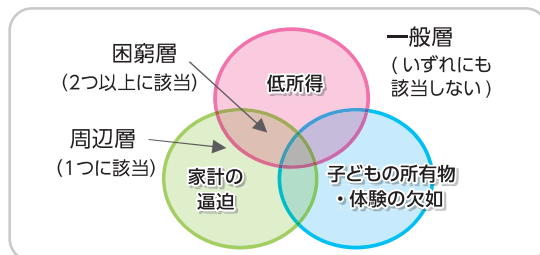
出典：平成28年度「子供の生活実態調査」（東京都）※

※東京都の「子供の生活実態調査」では、子どもの「生活困難」を以下の3つの要素に基づいて分類した。

- ①低所得：等価世帯所得が厚生労働省「平成27年国民生活基礎調査」から算出される基準（135.3万円）未満の世帯
- ②家計の逼迫：公共料金や家賃の滞納、食料・衣類を買えなかった経験など7項目のうち、1つ以上該当
- ③子どもの体験や所有物の欠如：子どもの体験や所有物などの15項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が3つ以上

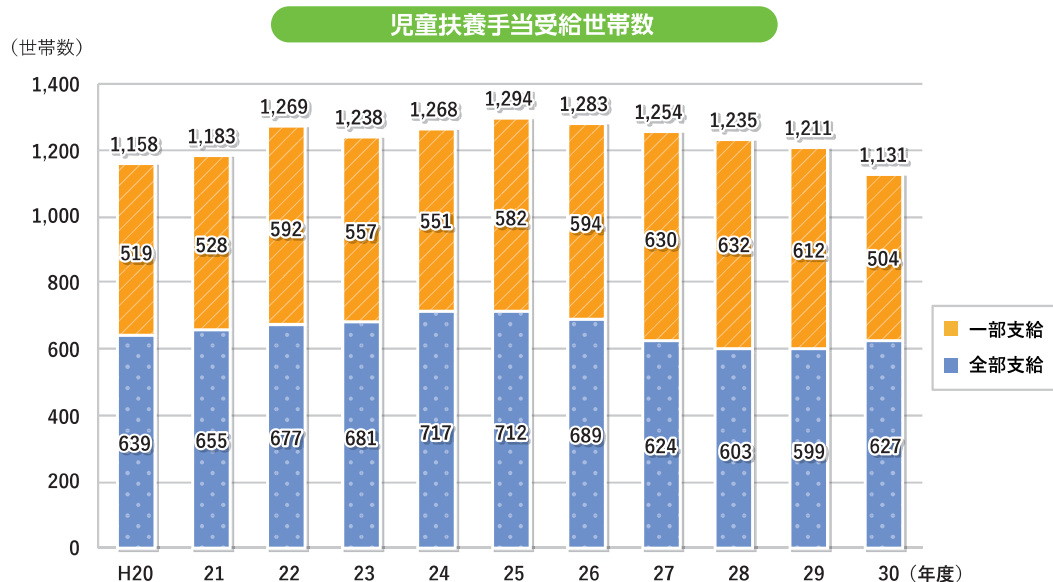
◆生活困難層の定義

生活困難層	困窮層+周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない



イ 児童扶養手当受給者の推移

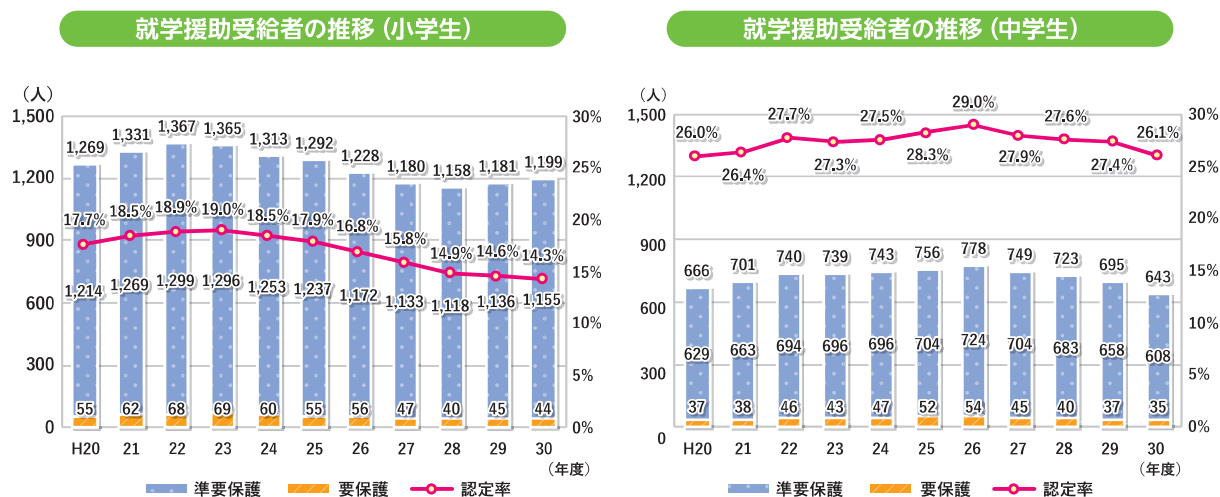
- 児童扶養手当の受給者は、平成 25 年度まで増加傾向にありましたが、平成 26 年度以降は減少に転じています。



出典：子育て支援課作成資料

ウ 就学援助受給者数の推移

- 就学援助の受給者数について、小学生はほぼ横ばい、中学生は減少傾向で推移しています。

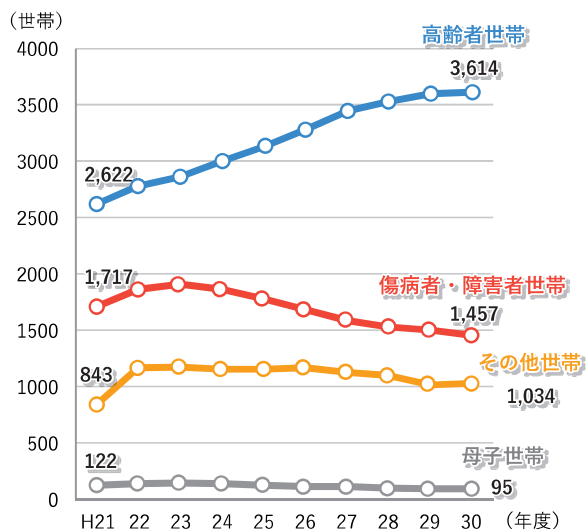


出典：学務課作成資料

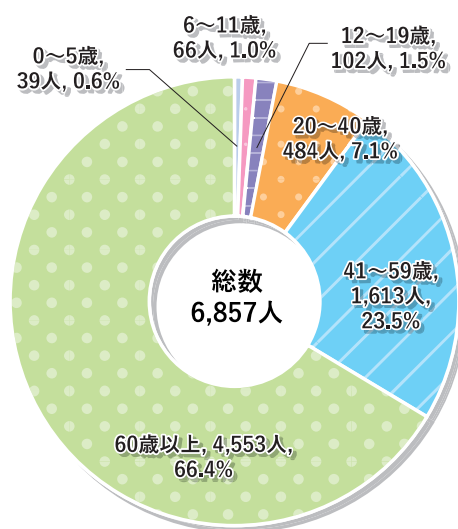
エ 生活保護の状況

- 世帯類型別の被保護世帯の状況は、高齢者世帯が一貫して増加傾向にあり、傷病者・障害者世帯、その他世帯は近年減少の傾向にあります。また、母子世帯は平成 21 年度からほぼ横ばいの状況が続いています。
- 年齢別の被保護人員の構成では、総数 6,857 人の内、60 歳以上が 66.4% と最も多く、次いで 41 ～ 59 歳が 23.5% と、年齢区分の高い順に被保護人員の割合も高くなっています。

世帯類型別被保護世帯状況(年度月平均)



年齢別被保護人員構成(H30 年7月31日現在)

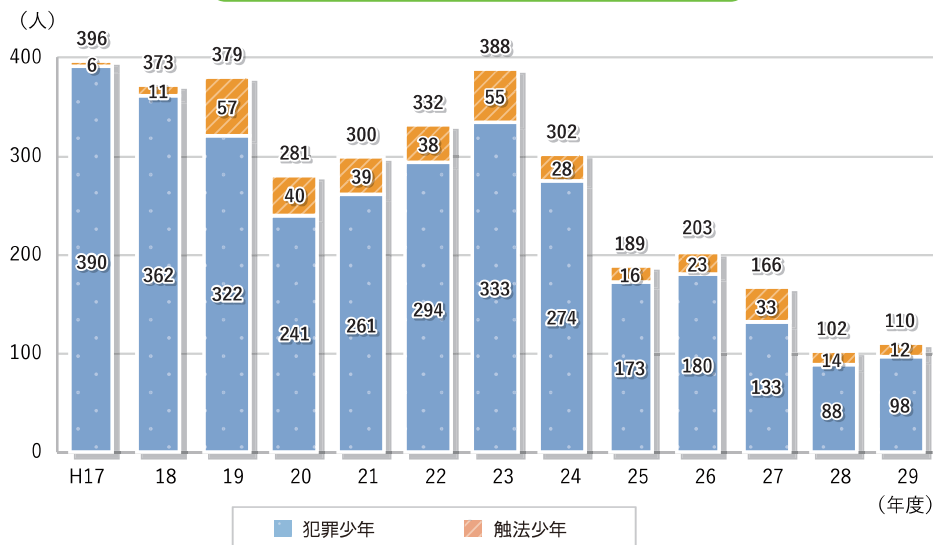


出典：豊島区の社会福祉

⑩ 非行の状況

- 平成 17 年度以降の刑法犯少年の検挙・補導人員は、平成 21 年から一時増加し、平成 24 年以降は減少傾向にありましたが、平成 29 年度は前年度と比較して微増しています。

刑法犯少年の検挙・補導人員(豊島区)



出典：警視庁の統計(豊島区内の池袋・巣鴨・目白警察管内の件数の合計)

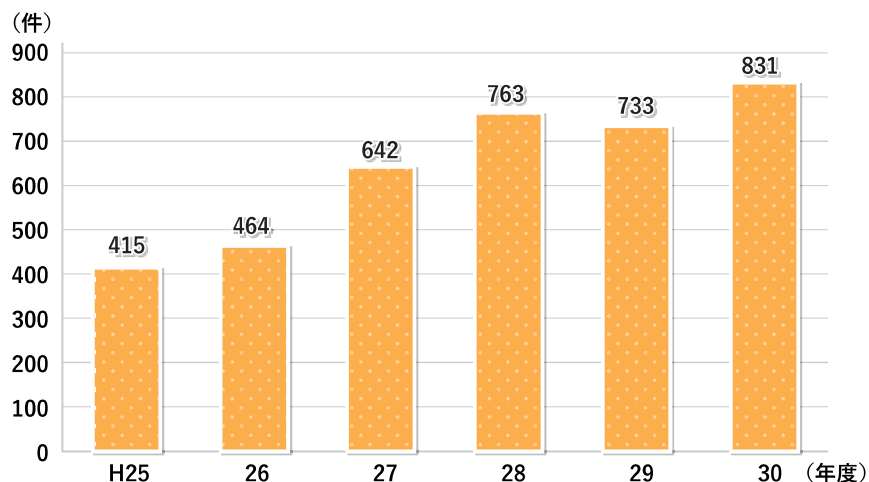
※犯罪少年：14 歳以上 20 歳未満の少年で罪を犯した者(交通関係を除く)

※触法少年：14 歳未満の少年で刑法令に触れる行為をした者(交通関係を除く)

⑪児童虐待の状況

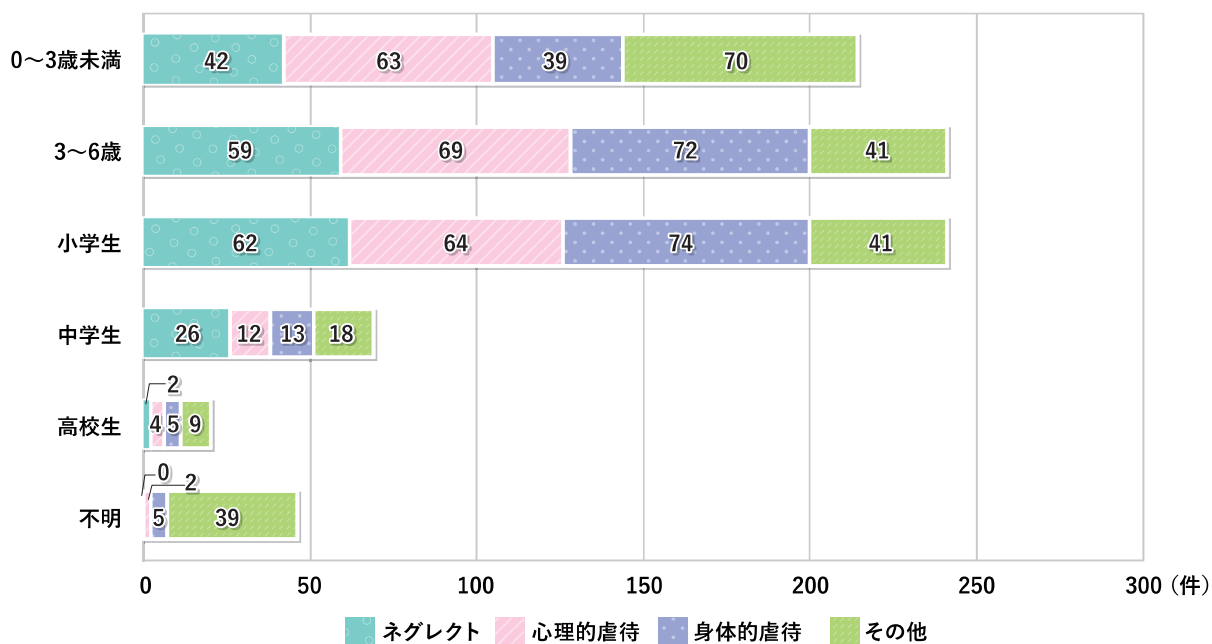
- 児童虐待に対する地域や関係機関の危機感の高まりにより、新規の相談・通告件数が増加傾向にあります。
- 年齢別では小学生以下の児童虐待に対する件数が多くを占めており、なかでも0～3歳未満では心理的虐待、3～6歳及び小学生では身体的虐待の主訴が最も多くなっています。

要保護児童等相談・通告件数の推移



出典：子育て支援課作成資料

要保護児童等の年齢区分別・主訴別件数 (30年度)

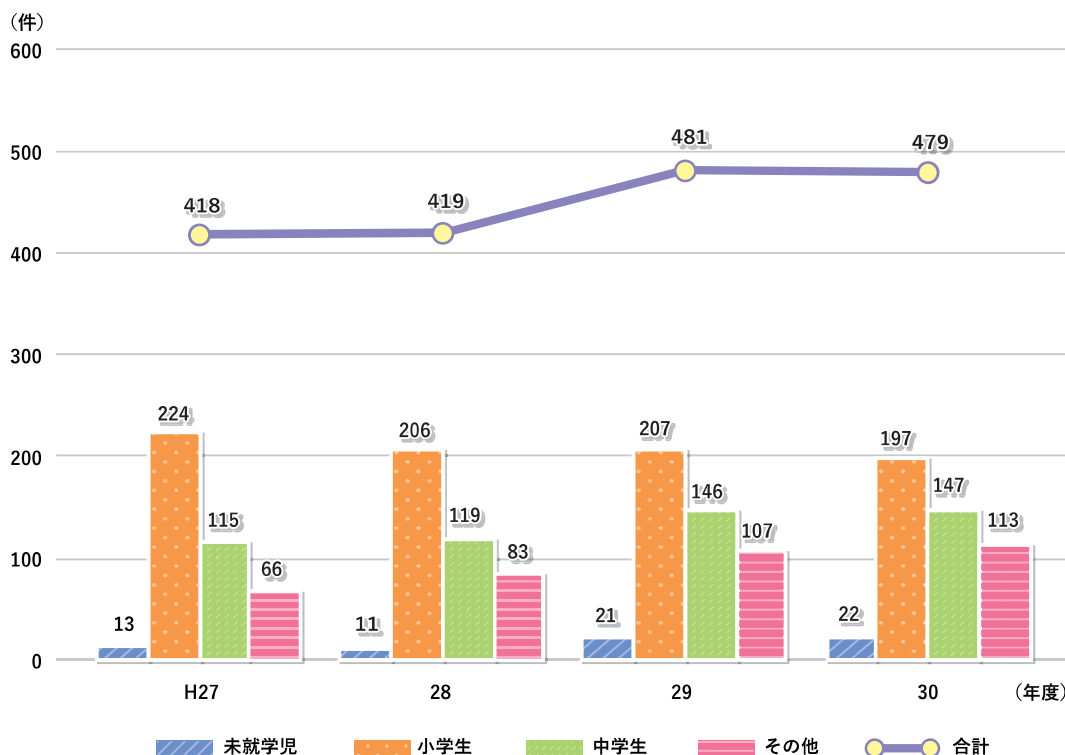


出典：子育て支援課作成資料

⑫子どもの相談に関する状況

- 教育センターにおける来所相談の件数は、近年増加傾向にありましたが、平成 30 年度は平成 29 年度と比較して相談件数が微減しています。
- 教育センターにおける来所相談の件数を主訴別にみると、不登校や発達・障害に関する相談が増加しています。

教育センター来所相談件数の推移



出典：豊島区の教育

教育センター来所相談の主訴別相談件数の推移

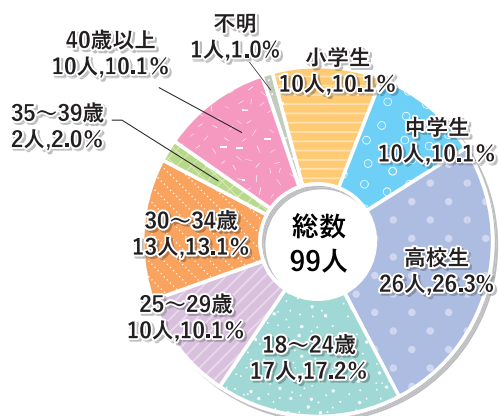
主訴	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
不登校	117	120	141	147
性格・行動	55	49	49	53
発達・障害	130	134	158	168
精神・身体	16	18	24	21
進路・適性	42	36	36	25
家庭生活	53	57	65	60
学校生活	4	4	6	4
その他	1	1	2	1
合計	418	419	481	479

出典：豊島区の教育

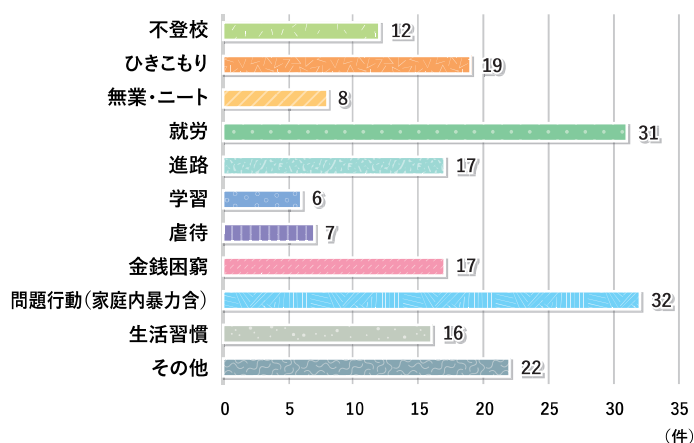
⑬若者支援の状況

- 平成30年度に開始した子ども若者総合相談「アシスとしま」について、登録相談者数を年代別にみると高校生が最も多く、相談内容別に相談件数をみると「問題行動（家庭内暴力含む）」が最も多く、次いで「就労」が多くなっています。

「アシスとしま」年代別登録相談者数
平成30年度



「アシスとしま」相談内容別相談件数(重複有)
平成30年度



出典：子ども若者課作成資料

⑭ひきこもりの状況(全国)

- 内閣府が平成27年に実施した「若者の生活に関する調査」では、全国の15歳～39歳までの子ども・若者の1.57%、約54万1千人がひきこもり状態にあると推計されました。

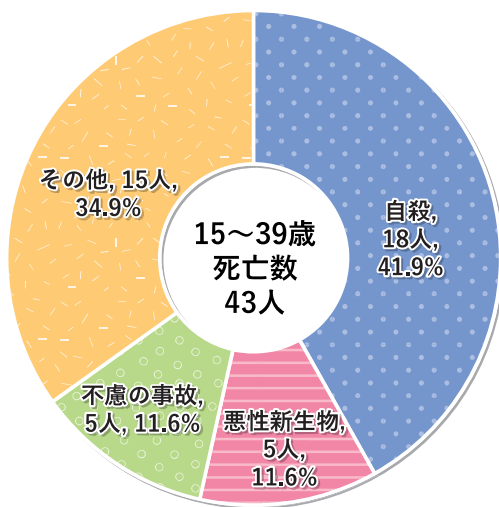
ひきこもり群の定義	該当人数	有効回収数に占める割合	全国の推計数	
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	11人	0.35%	12.1万人	狭義の ひきこもり 17.6万人
自室から出るが、家からは出ない または、自室からほとんど出ない	5人	0.16%	5.5万人	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	33人	1.06%	準ひきこもり	36.5万人
合 計	49人	1.57%	広義のひきこもり	54.1万人

出典：内閣府「若者の生活に関する調査報告書」

⑮ 自殺者数の推移

- 15 歳から 39 歳の死因のトップは自殺となっています。
- 自殺者数は増減を繰り返しており、平成 30 年は前年と比較して自殺者数が増加しています。
- 厚生労働省が、全国の平成 30 年中における自殺のうち、遺書等により推察できる原因・動機をまとめた資料によると、19 歳までは学校問題、20 代・30 代は健康問題、特にうつ病などの精神疾患の悩み・影響が多くなっています。

15～39歳の主要死因分類(平成30年)



出典：豊島区の保健衛生

【参考】

原因・動機特定者の原因・動機別（全国）

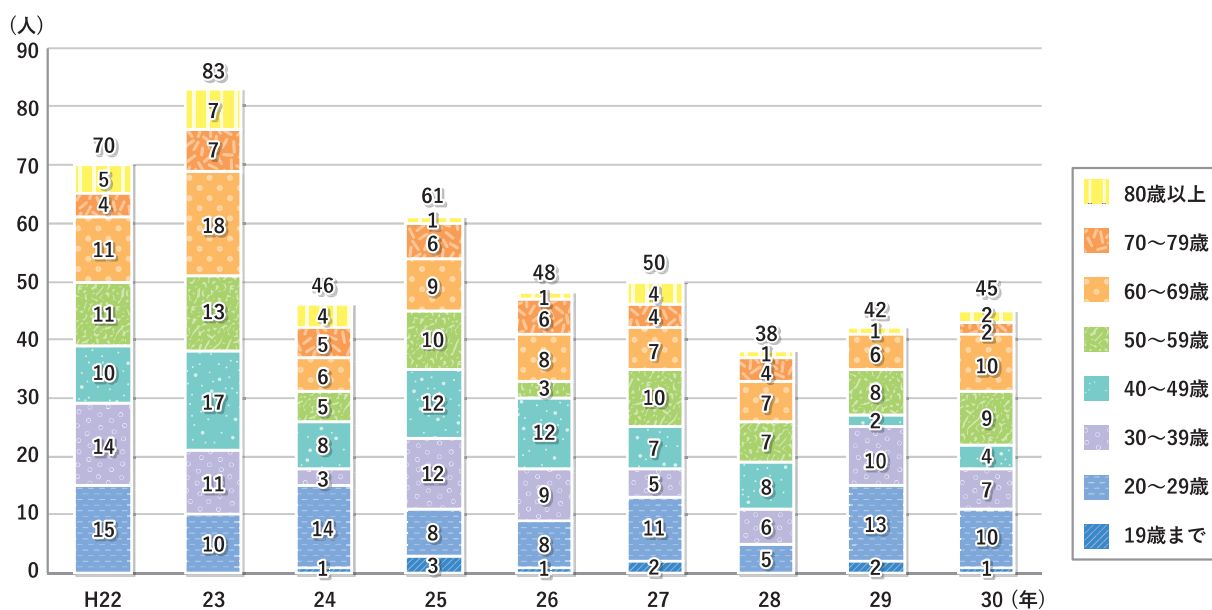
	～19歳	20～29歳	30～39歳
家庭問題	116	253	410
健康問題	119	712	1,073
経済・生活問題	16	352	479
勤務問題	32	414	425
男女問題	52	228	196
学校問題	188	163	3
その他	45	152	147
	568	2,274	2,733

出典：厚生労働省 平成 30 年中における自殺の状況

注）自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注）遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上することとしたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者の和とは一致しない。

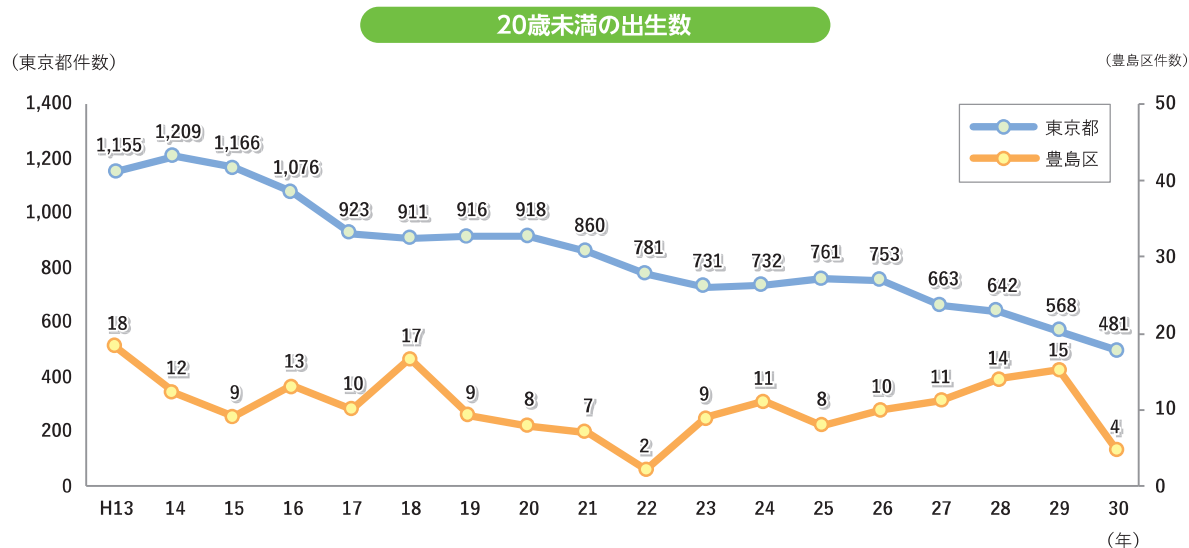
自殺者数の推移



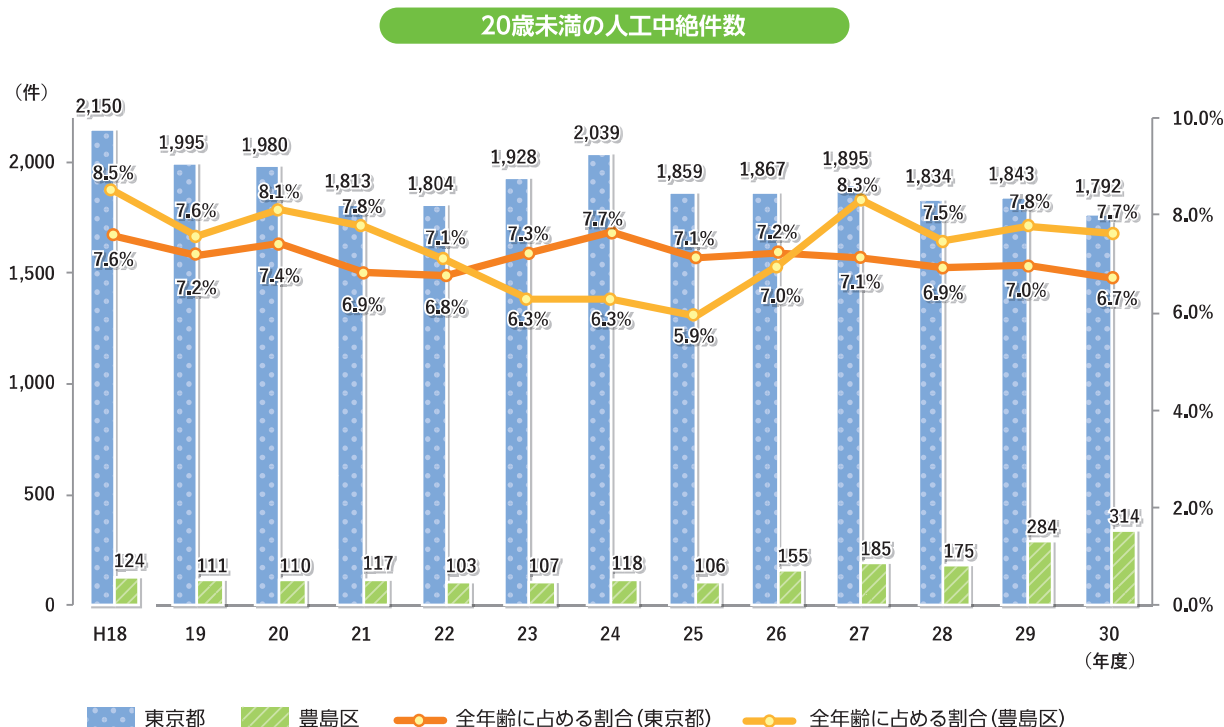
出典：豊島区の保健衛生

⑬ 10代の出産・人工中絶件数（東京都・豊島区）

- 平成30年の豊島区における20歳未満の母による出生数は4件、人工中絶件数は314件です。全年齢の人工中絶件数のうち、20歳未満が占める割合は7.7%となっています。



出典：東京都福祉保健局 人口動態統計年報（確定数）、豊島区の保健衛生



出典：豊島区の保健衛生、厚生労働省 衛生行政報告例（各年度）